

ちちぶだより



2026年 第355号

◆令和8年度 わかば祭	療育支援課	けやき寮	飯田 涼大	小林 隼人	… 2、4～5
◆わかば祭各寮の準備			かりん寮、くぬぎ寮、どんぐり寮	… 2～3	
◆自閉スペクトラム症支援者入門研修会	療育支援課	くぬぎ寮	岡崎恵美子	… 5	
◆新人さんに聞いてみました。				… 6～9	
		かりん寮	吉川 頌子	土橋望奈美	天野 綾子
		くぬぎ寮	小池 丹	松浦 亮太	
		どんぐり寮	井上 知真		
◆各寮の様子			かりん寮	坪井 敦憲	… 9
			けやき寮	島田由起子	… 10
			どんぐり寮	野口 修史	… 10
			くぬぎ寮	星 湧人	… 11
◆令和8年度職員の動き・行事予定・入所児童の動き					… 11
◆熊澤海道の「感覚に興味津々」			熊澤 海道	… 12	
◆編集後記					… 12

令和8年度 わかば祭

療育支援課 けやき寮 飯田 涼大 小林 隼人

今年度のわかば祭は、今までのわかば祭と少し違った取り組みを行いました。
どんな事を試みたか、お伝えしたいと思います。

実行委員会にて、今年度のわかば祭は職員だけでなく児童と一緒に作り上げていくものにしてはどうかという提案が出ました。そうした意見を基に児童たちへアンケートをとった所、「事前の準備を手伝いたい」「当日に歌を歌いたい」「看板作りを手伝いたい」などの意見があがりました。そうして今年度のわかば祭は児童も準備や運営を行う「児童参加型」として実施することになりました。

児童たちは、それぞれの得意なことや役割に応じて、看板作りや会場の清掃、当日までの準備、ゲームコーナーの運営、ステージ発表など、様々な場面



で力を発揮しました。職員に用意された催しを楽しむだけでなく、自分たちも一緒に作り上げる経験は、児童にとって新鮮なものだったと思います。

秩父学園では、寮で児童を直接支援する職員、本館で様々な業務を担う職員、毎日の食事を作る調理員をはじめ、多くの人がそれぞれの立場から児童の支援を行っています。今回のわかば祭

では、児童、職員といった秩父学園に携わる一人ひとりの手形を集め、大きな虹と若葉の壁面を制作しました。色も形も異なる手形が一つに集まり、美しい虹と葉になった姿には、「一人ひとりの存在が集まって、秩父学園が成り立っている」という思いが表れています。皆で協力して作り上げた今回のわかば祭を象徴する作品となりました。



全体の準備は、このような流れで、わかば祭に向けて、準備を始めました。
各寮は、どんな方法で児童と一緒に準備を進めたか、次で紹介いたします。

● かりん寮の取り組み

わかば祭に向けて、「何かやってみたいこと」を聞き取り、それに向けて様々な支援をしました。

ある児童は、わかば祭の受付をやってみたいと申し出てくれました。その児童は入所して初めてのわかば祭だったので、昨年の動画を見て雰囲気を知ってもらい、当日まで、繰り返し繰り返しその動画を見て、楽しみにしている様子がありました。

また、職員がお客さん役となって「いらっしゃいませ」と接客の練習をしました。

当日は、たくさんの来客で緊張してしまった様子はありましたが、「いらっしゃいませ」と来客の方に伝えることができました。

もう一人の児童は「カラオケで歌を歌いたい」と話をしてくれました。



普段から好きな歌の歌詞を見て歌ったり、ご自身で歌詞を書き写したりしていましたが、大勢の前で披露するのは初めてのことだったので、すごく緊張したと思います。でも、他児童の応援や助っ人が登場してくれて、緊張もほぐれ、大好きな歌を皆さんの

前で披露することができました。

「やりたい」気持ちはありつつも、緊張や不安でいっぱいになって、ご本人的には「うまくできなかった・・・」という場面もありましたが、職員一同“よく頑張った！”と賞賛の嵐となったわかば祭でした。

● くめぎ寮の取り組み

今年度のわかば祭は「児童参加型行事」として開催しました。例年のわかば祭では、人との関わりや注目を浴びることがあまり得意ではない児童たちは、陰から応援する形での参加が主となっていました。ですが、今回はそんな児童たちにも自分ができる形、方法で参加をお願いすることにしました。プログラムの中には「児童による有志発表」という枠を設け、「こんな発表をしてみたい」「得意なことを知ってもらいたい、披露したい」という希望を募り、例年通り人前に立つことが大好きな児童たちがより輝ける場も用意しました。そんな姿に刺激をもらい、陰から応援することが多かった児童たちも「受付係として参加してみたい」「花束贈呈の係をやってみたい」

と自分にもできることを見つけて運営に参加してくれました。また、事前準備としてわかば祭の看板作りを児童と一緒に行いました。各寮の児童たちに手形や足形をとってもらい、大きな虹を作りました。児童たちと作りあげたわかば祭は、特別でとても素敵なものになったと感じています。人前に立つ、人と関わること以外の場面で自分の得意を生かして参加したことで、児童たちの達成感と自信につながっていると嬉しいです。



● どんぐり寮の取り組み

わかば祭を児童一人ひとりが主体的に参加し、自分の意思を表現する機会とすることを目標に取り組みました。

どんぐり寮には、言葉でのやりとりや自分の思いを明確に伝えることが難しい児童も多くいます。そのため、普段から写真や絵カードを活用して選択肢を提示し、児童自身が選ぶ機会を大切にしています。わかば祭当日も、昼食時のジュースや参加してみたい活動などをカードで示し、自分で選んでもらうこ

様子を踏まえ、「どのような役割であればその子らしく参加できるか」を検討しました。人との関わりが好きなある児童には、開会のあいさつの中で好きな職員について紹介する役割を担ってもらいました。当日は自分らしく役割を果たすことができ、参加者の皆様からも温かい反応をいただきました。

児童の意思を汲み取ることは決して簡単ではありません。しかし、支援を通して見られた表情や行動を振り返ることで、児童の思いや好みへの理解を深めることができます。その積み重ねが、よりよい意思決定支援につながると考えています。わかば祭で得られた気づきを今後の支援にも生かしながら、一人ひとりの小さな意思表示を大切に、その子らしい参加の機会を広げていきたいと思っています。



とで、小さな場面であっても意思を表出する経験につながるように支援しました。

また、一人ひとりの特性や普段の

さて、児童が参加してわかば祭の準備が整いました。当日の様子は、どうだったのでしょうか？

令和8年6月13日、快晴のもと、秩父学園創立記念「わかば祭」が開催されました。

わかば祭開始前には受付係の児童から来園者へ団扇が直接手渡されました。来賓やご家族、卒園児童など多くの方に来園していただき、その分大変だったと思います



が頑張ってくれました。ちなみに手渡された団扇も児童が作成してくれた物です。

児童の開会の言葉からわかば祭が始まり、日頃から秩父学園を支えていただいている来賓者やボランティアの紹介をさせていただきました。次は秩父学園児の歌です。今年度は本芝房ハーモニックウィンズの皆様に演奏をしていただき、壮大で重厚な学園児の歌となりました。続いては各寮の寮紹介です。寮の紹介パネルを持って説明したり、児童全員が前に出て好きな物を発表したり、それぞれの寮の特色が出る紹介となりました。

ここからは、ステージ発表が続きます。最初は児童による歌の発表です。大勢の前でも緊張せずに堂々と歌う児童や、お友たちに勇気づけられて一生懸命歌う児童など、それぞれ素敵な歌声を聞かせてくれました。続いては本芝房ハーモニックウィンズの皆様による発表です。勢いのあるバンド演奏から始まり、華やかなカラーガードのダンス披露では児童も一緒になって踊っていました。吹奏楽演奏では



流行の曲や、児童も大好きな「ぽよよん行進曲」など素敵な曲の演奏に合わせて児童もノリノリで楽しんでいました。演奏後

には児童から本芝房ハーモニックウィンズの皆様へ感謝の気持ちを込めて花束の贈呈をさせていただきました。そしてステージ発表を締めくくるのは、新任職員の発表です。今年度は6名の新任職員がジャンボリミッキーのダンスを披露しました。児童も参加できる楽しい発表になりました。そして、児童による閉会の言葉の後には、今年度わかば祭のお手伝いをしてくれた児童のお名前を読み上げさせていただきました。

わかば祭はまだ終わりません。次は場所をグラウンドから体育館に移してゲームコーナーの開始です。毎年大人気の射的では、学園児童のみではなく卒園児童も多く列に並んでいて、的を打ち落とそうと狙いを定めている姿が見られました。さらに今年度はワニワニパニックが登場し、時間内にどれだけワニを叩けるのか児童も熱中していました。このワニワニパニックでも、ワニを出し入れる係を学園の児童が担ってくれました。また、



た、体育館内の虹と若葉の壁面作品にはご来場の皆様足を止めて見てくださっていました。そして大盛況の中わかば祭は終了しました。

わかば祭終了後、児童たちに感想を聞くと、「準備で掃除をするのは大変だったけど頑張った」「発表は緊張したけど、練習の成果を出せた」「完成した虹を見て、すごいものができたと思った」「ゲームコーナーを手伝ったら、お客さんがたくさん来て楽しかった」と話してくれました。また、「自分たちも参加できるわかば祭は楽しかった」「他の児童が頑張っている姿を見て、すごいと思った」という声も聞かれました。自分の役割をやり遂げた達成感だけでなく、仲間の頑張りに気づき、認め合う姿が見られたことも、大

きな成果の一つです。

児童参加型のわかば祭は今年度初めての取り組みであり、準備や運営には試行錯誤もありましたが、児童たちが生き生きと参加し、嬉しそうな笑顔を見

せてくれたことは何より嬉しいことでした。今回の経験を今後につなげ、これからも児童と職員が共につくり上げる日々を大切にしていきたいと思います。

自閉スペクトラム症支援者入門研修会

療育支援課 くぬぎ寮 岡崎 恵美子

令和8年5月20日から22日にかけて、国立障害者リハビリテーションセンター学院において「令和8年度自閉スペクトラム症支援者入門研修会」が開催されました。本研修は、自閉スペクトラム症支援に従事する方々を対象に、自閉スペクトラム症の特性や課題、支援に必要な基本的知識を習得していただくことを目的として実施されました。

私は、本研修にスタッフとして運営に携わるとともに、講師として参加しました。研修運営においては、受講者の皆様が安心して学べる環境作りを心掛けながら、3日間対応させていただきました。研修後のアンケートでは、「内容が充実していた」「学ぶことが多かった」「職場で活かしていきたい」といった感想が多く寄せられ、入門研修でありながら受講者の皆様にとって有意義な学びの機会となったことを大変嬉しく感じました。

また、講義内で実施したグループワークでは、受講者同士が活発に意見交換を行う様子が見られました。自閉スペクトラム症の支援を行う中で悩みや行き詰まりを感じ



ることも少なくありません。そのような中で、さまざまな立場の支援者が情報交換を行い、互

いに学び合える場の重要性を改めて実感しました。

講師として、「入所移行期におけるチームアプロ

チ～安心して生活を始めるための支援のポイント～」をテーマに発表を行いました。チームで取り組んだ支援を振り返る中で、児童の特性理解や環境調整の工夫が生活の質の向上にどのようにつながったのかを整理することができ、大きな学びとなりました。また、児童支援における基本を再確認するとともに、チームで統一した支援を行うことの重要性を改めて認識し、自閉スペクトラム症支援への理解をより深める機会となりました。



さらに、自身の支援の進め方や考え方の傾向について振り返る機会にもなり、支援者としての課題や改善点を見つめ直すことができました。発表後には、受講者の方々から質問や意見をいただき、自分自身では気づかなかった視点に触れることで、支援のあり方を見直すきっかけを得ることができました。

今回、研修運営と講師の両方の立場で参加したことで、支援者としての姿勢を見直し、自身の実践を振り返る貴重な機会となりました。初めての発表で緊張や不安もありましたが、挑戦したからこそ得られた多くの学びがあり、今後の支援や研修活動につながる大変有意義な経験となりました。

新人さんに
聞いてみました。

今年度も 6 名の方が秩父学園の仲間に加わりました。
毎年聞いている事を今年もインタビューしました。

- ①秩父学園に就職したいと思った動機
- ②秩父学園の第一印象 ③7月15日時点での感想
- ④今後こんなことをしてみたい、こんな職員になりたい
- ⑤自由記述 です

❀ 吉川 頌子

①大学時代に放課後等デイサービスでアルバイトをしていたことがきっかけで、障害児の支援に興味を持ちました。子どもたちと関わる中で、一人ひとりの成長を近くで感じられることにやりがいを感じ、福祉の仕事に携わりたいと思うようになりました。そんな中、秩父学園で児童と関わるボランティアを募集していることを知り、参加しました。児童と職員の皆さんの温かい雰囲気の魅力を感じ、ここで働きたいと思い、就職を希望しました。

②ボランティアで初めて訪れた際、自然が豊かで敷地の広さに驚きました。また、職員の方が優しく接してくださり、安心して活動に参加できました。児童もたくさんの塗り絵や折り紙をプレゼントしてくれて、とてもうれしかったです。

③かりん寮をはじめとする先輩職員の方々がとても

優しく、温かい雰囲気の中で働くことができています。職員室で気軽に相談や情報交換できる環境が整っていて安心して業務に取り組むことができています。児童との関わりの中で難しさを感じることもありますが、先輩方にサポートしていただきながら日々学んでいます。少しずつ児童と信頼関係が構築することができ、自分自身の成長を感じることが嬉しく、やりがいにつながっています。

④児童一人ひとりの良いところや可能性を見つけ、その力を伸ばしていける職員になりたいです。また、児童が安心して楽しく過ごせるような関わりを大切に、日々の支援を通して成長を支えていきたいです。

⑤いつも支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、日々の業務に取り組んでいきます。今後ともよろしくお願いいたします。

❀ 土橋 望奈美

①社会福祉士実習でお世話になったことです。実習を通して、児童一人ひとりの特性や成長段階に合わせた丁寧な支援に魅力を感じました。また、職員の皆さんが高い専門性を持ちながら、温かく児童たちに寄り添う姿が印象に残っています。私もその一員として、児童たちの成長を支える支援に携わりたいと思い、入職を希望しました。

②実習初日はとても緊張していましたが、学園内は緑が豊かで落ち着いた雰囲気があり、職員の皆さんも温かく迎えてくださったため、安心したことを覚えています。

③最初は慣れないことが多く、戸惑ったり大変だと感じたりすることもありました。しかし、児童と関わる中で少しずつ信頼関係を築くことができ、成長する姿を間近で見られることにやりがいを感じています。

日々新しい発見や学びがあり、児童の成長と一緒に喜べることをうれしく思っています。

④児童やご家族、一緒に働く職員の皆さんから、「この人なら大丈夫」と思ってもらえるような安心感のある職員になりたいです。失敗を恐れずにいろいろなことへ挑戦し、経験を積みながら成長していきたいと思っています。また、優しさだけでなく、困難な場面でも落ち着いて対応できる強さを身につけられるよう、先輩方から多くのことを学びながら一歩ずつ成長していきたいです。

⑤まだ慣れないことも多くありますが、児童や先輩方との日々の関わりの中で、多くのことを学ばせていただいています。これからも経験を重ねながら、自分らしく、気張り過ぎずに歩んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

❀天野 綾子

①私はこれまで、人の成長や心の変化に寄り添う仕事に携わってきました。日々の生活の中で生まれる小さな変化を大切に、その人らしさが育っていく瞬間に関わることにやりがいを感じてきました。支援に関わる中で、「その人らしく豊かに生きることを支える」という大切な理念に触れ、目の前の人の生活が少しずつ前向きになるよう寄りそう姿勢を学んできました。こうした経験から、児童たちの未来に寄り添い、歩幅を合わせながら支援する伴走者として関わりたいと思い、入職を希望しました。

②初めて訪れた時、長い歴史を感じさせる豊かな木々に囲まれた広々とした自然環境に目を奪われました。所沢という土地柄もあって、どこか「となりのトトロ」を思わせるような懐かしさとワクワク感のある風景が広がっていました。そして、職員の皆さんの雰囲気にも強く心を動かされました。児童たちへの関わりが穏やかで丁寧なのはもちろんですが、新人の私に向けてられる言葉や接し方がとても自然で温かく、「この方たちと一緒に働きたい」と気持ちが高まると同時に、ここで経験を重ねていけば自分もこうなれるかもしれないという期待を感じました。一人ひとりの人柄の良さと、対人援助職として積み重ねてきた経験が滲むような関わり方に、まさに“人としても支援者としてもプロフェッショナルな集まり”という印象を受けました。関わり方が自然で、経験を重ねてきた人ならではの落ち着きがあって、「全部真似したい！私もこうになりたい！」と心から思いました。

③入職してからの毎日は学びの連続です。先輩職員の皆さんから、支援の意図や関わり方を丁寧に教えていただきながら、少しずつ業務に慣れてきました。まだ上手くできずに戸惑うこともあり、「迷惑をかけてしまっているのでは」と不安になる瞬間もありますが、その都度声をかけていただき、安心して取り組むことができています。また、秩父学園は研修がとても多く、日々学び続ける環境が整っていることにも驚きました。支援の背景にある考え方や専門性を深く理解する機会が多く、まるで学校のように毎日新しい知識や気づきが積み重なっていくことが刺激になっています。

こうした学びの積み重ねが、児童たちへの支援の質に繋がっていくのだと実感しています。

④今後は、児童たちが安心して日々を過ごせるよう、基礎的な支援を確実に身につけていきたいと考えています。障害は明日すぐに治るものではありませんが、明日から少しでも過ごしやすくなる支援があると信じています。児童たちの生活の中にある小さな変化や気づきを丁寧に捉えながら、その児童の歩幅に合わせて寄り添う“伴走者”のような存在を目指しています。伴走者という言葉は、一人で抱え込むという意味ではなく、標準的支援の枠組みの中でチームと連携しながら、児童たちと同じ目線で日常を支えていく距離感だと考えています。支援をする側も受ける側も、安心、安全、安楽に過ごせる日常を積み重ねることで、その児童がこれからの生活に前向きに歩いていく力につながると感じています。ここで過ごす安心感が、児童たちの未来へ自然と受け継がれていくような支援を大切にしていきたいです。そのために、日々の学びと経験を確実に積み重ねながら、児童たちの変化を見逃さず、必要な支援を丁寧に選び取れる職員を目指しています。

⑤秩父学園に入職してまず驚いたのは、児童たちの食事バランスでした。栄養価や彩り、季節感まで丁寧に配慮されていて、栄養士さんと調理の方々が連携しながら、育ち盛りの心身を支える食環境を整えていることを強く感じました。また、学園がInstagramを通して、日々の支援の様子や職員の学びを外に向けて発信している取組みにも心動かされました。以前の職場では、社会復帰に関わる情報をどう伝えるか悩んだ時期があり、伝えることの難しさや繊細さを身にしみて感じていました。だからこそ、今の時代にSNSを使って、学園の日常や支援の積み重ねを自然な形で届けられることの大切さを感じますし、同時に、世界中の人の目に触れる可能性があるという緊張感もあります。その緊張感が、支援者としての姿勢をより丁寧に整えていく力になるように感じています。このような環境の中で、児童たちの変化や成長を丁寧に見つめながら、日々の支援を積み重ねていきたいと考えています。

❀ 小池 丹

①前職では一般的な保育園で保育士として勤務しておりました。集団生活の中では、どうしても一人ひとりの児童に十分な時間を割くことが難しく、もどかしさを感じる場面が多々ありました。「もっと目の前の一人ひとりと深く向き合い、それぞれの特性や成長のペースに寄り添った支援がしたい」という思いが強くなっていた際、専門的なアプローチで個別最適な支援を実践されている秩父学園の存在を知りました。ここでも、これまでの保育経験を活かしながら、より専門性の高い支援や、児童たちの主体性を尊重した関わりができるかと考え、志望いたしました。

②敷地内に一歩足を踏み入れた際、まずその自然の豊かさに驚かされました。緑に囲まれた穏やかで開放的な環境は、児童たちにとってのびのびと過ごせる最高の場所であると感じるとともに、ここで働く職員にとっても、落ち着いて温かい気持ちで支援に向き合える素晴らしい空間であるという印象を受けました。

③中途採用での入職ということもあり、最初は新しい環境や専門的な支援手法に馴染めるか不安もありました。しかし、日々の業務の中で児童たち一人ひとりとじっくり向き合う時間が持てることに、非常に大き

なやりがいを感じています。保育士としての経験が活きる場面もあれば、福祉・療育としての新しい視点を学ぶ場面も多く、毎日がとても新鮮で刺激的です。先輩方の温かいサポートのもと、少しずつですが自分らしい関わり方が見えてきたと感じています。

④まずは園の素晴らしい自然環境を活かし、児童たちが五感を使っのびのびと体験できるような活動や遊びを提案していきたいです。そして、前職の保育士としての経験に基づいた「子どもの育ちを見通す視点」と、ここで学ぶ専門的な支援の知識を掛け合わせ、児童たち一人ひとりが安心して自分を表現できるような存在を目指します。「この職員ならいつでも自分をそのまま受け止めてくれる」と、児童たちにも保護者の皆様にも信頼していただける職員になりたいです。

⑤この度は、秩父学園の職員として新たな一歩を踏み出せる機会をいただき、心から感謝しております。中途採用ならではの強みを活かしつつ、初心を忘れずに日々学びを重ね、学園の理念である児童たち一人ひとりに寄り添った支援に貢献できるよう、誠心誠意努めてまいります。

❀ 井上 知真

①小さい頃から秩父学園が家の近くにあり、身近な存在でした。就職活動を機に学園について調べ、説明会に参加したことで、利用者一人ひとりに寄り添う支援や職員さんの温かい雰囲気の魅力を感じ、秩父学園で働くことを志望しました。

②職員の皆さんが明るく、利用者一人ひとりに寄り添って支援している姿が印象的でした。学園全体が落ち着いた雰囲気、利用者の皆さんが安心して過ごせる環境が整っていると感じました。

③毎日新しい発見や刺激があり、先輩職員や利用者の皆さんから多くのことを学びながら充実した日々を過ごしています。まだ、慣れないこともありますが、先輩方に支えていただきながら少しずつできることが増え、自分自身の成長を感じています。

④利用者一人ひとりの気持ちや個性を大切にし、安心

して過ごせるような支援のできる職員を目指したいです。また、日々知識や技術を身につけ、児童たちや職員の皆さんから信頼される存在になれるよう努力していきます。

⑤まだまだ学ぶことは沢山ありますが、一つひとつの経験を大切にしながら成長し、児童の皆さんに寄り添える職員になれるよう頑張っていきます。今後ともよろしくお願いいたします。



❀ 松浦 亮太

①私が秩父学園に就職したいと思ったきっかけは、観察実習の際に寮での会議を見させていただいた時に、一人の児童のことを職員の方々全員が意見を出し合いながら、行動の背景や今後の関わり方について話し合われていた姿を見たことが大きなきっかけです。職員の方々チームで支援を行っており、児童のことを第一に考え、どうしたらより良い環境にすることができの話を話し合い考える姿が印象に残り、私もチームに加わりたと思ったからです。

②とにかく自然豊かだと思いました。秩父学園を知った時は、まだ地元の広島から出てきたばかりだったので都会のイメージが強く、関東の所沢にこんな自然豊かな施設があるのだと驚いたことを今でも覚えています。

③先輩職員の方々が優しく、とても仕事をしやすい環

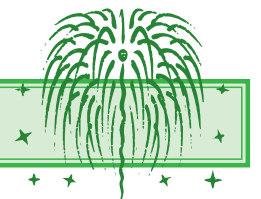
境だと感じています。わからないことを聞くと嫌な顔一つせず丁寧に教えていただいております。また、失敗をしてしまった際にも何がいけなかったのかを教えてくださいたり、今後同じような状況になった際の対応方法を一緒に考えたりと、日々の支援や業務を改善していくことができる、とても充実した毎日を過ごしています。

④秩父学園のチームの一員として児童一人ひとりの思いを汲み取り取りながら、成長を支援できる支援者になることです。また、横のつながりを意識して多角的な視点から、一人ひとりに合った支援を組み立てていきたいです。

⑤児童一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、自分自身も成長できるよう日々努力してまいります。これからどうぞよろしくお願いいたします。



各寮の様子 一初夏編



かりん寮

新年度を迎え、児童の皆さんは進級・進学等での新たな環境にワクワク感やドキドキ感を抱いて過ごす姿が見られました。また、人事異動により職員も新たな体制となり、令和8年度・かりん寮がスタートを切っております。児童の過ごし方ですが、平日はそれぞれの学校に通い、国語や算数等の教科学習の他、作業や自立活動時間にて、今後に活かせる知識技術の向上を図っています。土日等の学校が休み



の日は、寮生活の中で職員やお友達との関わり、買い物、音楽鑑賞、製作活動、一人でのリラック

ス時間等、それぞれが活動を選択して、自発的な余暇時間を過ごしています。かりん寮では余暇活動にひと工夫を加え

て、余暇活動を楽しんでもらいながら、他者との関わりやルールを守ること（社会性・認知面）、感触・感覚遊びや微細・粗大運動の経験（感覚・運動面）、ことばや物・状況場面を見ての理解（言語理解・行動面）等、児童の皆さん、それぞれの成長を促す支援にも取り組んでいます。

また、公共交通機関を利用した外出活動や地域生活移行に向けての施設見学等も積極的に行っています。「笑う門には福来る」と言います。今年度のかりん寮も、児童の皆さんを中心に職員も「笑顔」が多く溢れる日々を過ごしていきたいと思っています。今年度もよろしくお願いいたします。



坪井 敦憲

けやき寮



けやき寮は、4月、高校3年生2名、高校2年生2名、中学3年生1名の5名で新年度を迎えました。職員の異動が多かったので、児童の生活に影響が出るのではと心配しましたが、春休みを一緒に過ごすうちに徐々に慣れてきて、様々な余暇活動にも取り組めるようになりました。けやき寮の休日は、体育



館でバスケットや、グラウンドでキャッチボール、園内散歩など、体を動かす活動をしている児童が多くいます。体を動かすと、気持ちがいいですし、気分転換にも

なっているようです。また、今後の生活に必要な経験を積むため、公共交通機関を利用した外出や外食を定期的に行っています。6月、わかば祭に向けた準備が始まりました。今年度のわかば祭は、児童参

加型の行事にすることを掲げ、起案寮として取り組みました。けやき寮の児童たちも、積極的に準備や当日のお手伝いをしてくれ、大変頼もしかったです。7月、高校3年生2名の地域生活移行先が決まり、退園することとなりました。秩父学園にいたうちにやりたかったことを聞き取り、できるだけ叶えられるようにして、明るい気持ちで退園できるよう、準備をすすめました。1名は、卒業コンサートを開きたいと希望され、実施しました。大勢のお客さんを迎えてコンサートができ、大満足でした。1名は、担当職員に、カードゲームで使うカードを作ってほしいと希望されました。また、お別れ会で皆の前で挨拶をしたいと教えてくれ、会を開きました。2名の児童が退園するまでの様子を見て、他の3名も自分の将来について考えているようでした。 **島田 由起子**



どんぐり寮



昨年度4月から特別支援寮として開設され、1年が経過しました。この1年間の生活の中で、多くの児童の皆様が地域生活移行され、新たに多くの児童の皆様の入所もありました。今年度4月には、中学部入学式に参加された児童の方もおり、入学式では、



立派な姿で式典に参加することができました。新年度がスタートし、平日は毎日学校へ登校し、休日

は散歩や日中活動に取り組むなど、日々充実した毎日を送っています。どんぐり寮の児童の皆さんが、毎回楽しみにしていることがあります。それが「おやつやさん」です。「おやつやさん」は、指定された料金の金額内で、好きなおやつを選び購入することができます。「決められたルールのもとで、商品を購入

する」という、実際に地域へ出て、買い物をする際に役立つ経験を積むことができ、さらに自分の好きなおやつを選ぶことができるため、児童の皆さんにとって、とても楽しく有意義な時間となっています。6月には、開園記念日「わかば祭」もあり、寮の紹介を頑張ったり、有志の方の発表や、ボランティアの方々の発表、新任職員の発表などを楽しみました。また、ゲームコーナーの射的や的当ても楽しまれました。7月からは児童の皆様が待ちに待った、プールも始まりました。夏休みも始まり、児童の皆様は毎日気持ち良さそうにプールの時間を楽しまれました。夏休みは、プールのほか、散歩や日中活動など日々の日課に取り組む、充実した日々を過ごされています。引き続き、児童の皆様1人ひとりのペースを大切にしながら、日々の生活を過ごしていきます。 **野口 修史**



くぬぎ寮



今年度は異動してきた職員も多く、児童だけでなく職員も少し緊張した様子で新年度をスタートしました。しかし、児童一人ひとりのペースに合わせて関わりを重ねていく中で、次第に笑顔で過ごす時間が増え、落ち着いた生活を送れるようになってきました。日常の余暇活動では、タブレットを活用する児童が増えました。動画鑑賞などを楽しみながら、それぞれが思い思いの時間を過ごしています。また、ルールを守りながら使用することで、時間を意識して行動する力を身につける機会にもなっています。くぬぎ寮では集団で行う余暇活動の一環として、ドライブ外出やクッキング活動を実施しました。ドライブ外出では、車窓から見える季節の風景を楽しみながら過ごしました。途中でマクドナルドのドライブスルーを利用すると、



ドライブ外出では、車窓から見える季節の風景を楽しみながら過ごしました。途中でマクドナルドのドライブスルーを利用すると、

児童たちは嬉しそうな表情を浮かべ、自分で選んだ商品を美味しく味わっていました。クッキング活動では、まずパフェ作りに挑戦しました。アイスクリームやフルーツ、お菓子などを自分で選びながら盛り付けを行い、



一人ひとり個性あふれるパフェが完成しました。完成したパフェを嬉しそうに職員へ見せる姿も見られ、大満足の様子でした。また、7月にはかき氷作りも行いました。好きなシロップを選び、自分だけのかき氷を作って楽しみました。暑い日に食べる冷たいかき氷は特別なおやつとなり、児童たちからも大変好評でした。これからも児童一人ひとりの思いに寄り添いながら、安心して楽しく生活できる環境作りに努めてまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



星 湧人

❖職員の動き

令和8年8月31日付

加瀬 優奈 辞職（地域移行推進課）



令和8年8月8日付採用職員



赤塚 望
新規採用
地域移行推進課

行事予定

9月1日

入間わかさ高等特別支援学校 始業式
所沢特別支援学校 始業式

10月～11月

インフルエンザワクチン接種

11月7日

入間わかさ高等特別支援学校 緑明祭

11月11日～13日

所沢特別支援学校 トコトコフェスティバル

❖入所児童の動き

神奈川県に男児1名

青森県に男児1名

埼玉県に男児2名

地域生活移行しました



熊澤海道の「向かい風 反対向けば 超追い風！」

「感覚に興味津々」

国立障害者リハビリテーションセンター病院 歯科医師 熊澤 海道

今年は梅雨あるなーとか思っていたら気づけば例年通り汗だくで（8月前半）コラムを書いている熊澤です。

以前からちゃんと学ばねばと思っていたのですが、最近「感覚」について興味津々です。

歯科というものが不人気な理由を考えると「痛い！」というのが一番かとは思いますが、視覚（尖ったりして怖い）、聴覚（恐ろしい音がして怖い）、嗅覚（薬のにおいが変で怖い）、味覚（なんかまずくて怖い）、触覚（口の中という大事な場所をいじくられて怖い）、という五感すべてに訴えかける恐怖も原因ではないかと考えています。ということで「感覚」について今更ながらちゃんと学ぼうと思ったのですが、完全に熊澤の理解力不足が原因で本だけ読んでいてもなかなかピンとこないというかイメージが難しいと感じています。

そんな時！いらっしゃるではないですか！秩父学園には素晴らしいプロフェッショナルの方々が数多く！（作業療法士さん、心理療法士さん、言語聴覚士さん、栄養士さんなどなど！）

本来お金を支払って手に入れるような内容を聞かせてもらうことができるうえに今まさに困っていることを一緒に考えてくれるというなんとも贅沢な環境であることに大感謝です。この贅沢環境を活用させてもらうことも連携かなと考えます。

なんだか途中からタイトルと違う内容になっているなとうすうす感づきながらもあえてキーボードを打つ手を止めずに書き切った自分に驚いている今日この頃です。



編集後記

ちちぶだよりにも何度も何度も掲載されてきました、秩父学園を代表する桜の大木が、古い木の為、伐採が決まりました。私が入職した約30年前にも満開の花を咲かせて歓迎してくれました。

話を聞いた時は多くの職員から「ああ〜」と何ともいえない言葉が出てきました。とても残念ですが、伐った後から、必ず新しい芽が出てくるはずです。数十年後またきれいな花を咲かせてくれることを待っています。

（仲）



発行日 令和8年9月16日

発行 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 秩父学園

住所 埼玉県所沢市北原町860 TEL 04-2992-2839

FAX 04-2995-2253

chousa-chichibu@mhlw.go.jp

https://www.instagram.com/chichibu_gakuen.official/

公式
Instagramは
こちら！

